

PRESS RELEASE



やまがたの上質ないいもの。
その魅力をもっと伝えたい。
この新しいブランドマークを旗印に、
山形のいいものの魅力を伝えていきます。

令和6年9月19日

県政記者クラブ報道機関 各位

山形県産業賞委員会事務局
(山形県産業労働部産業創造振興課)

令和6年度山形県産業賞及び山形県科学技術賞受賞者の決定について

本日、山形県産業賞委員会を開催し、山形県産業賞及び山形県科学技術賞の受賞者を下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

1 本年度の受賞者（功績概要は別添のとおり）

山形県産業賞（五十音順：敬称略）

（受賞者）

大場 利秋（おおば としあき）

株式会社ジョイン

松村 英一（まつむら えいいち）

（市町村）

最上町

山形市

天童市

山形県科学技術賞

（受賞者）

上野 義之（うえの よしゆき）

（市町村）

山形市

2 贈呈式

日時：令和6年11月3日（日）午前10時30分から

場所：山形県郷土館「文翔館」

その他：贈呈式は、齋藤茂吉文化賞と合同で行う。

3 賞の概要

目的：本県産業及び科学技術の振興に資するため、県内において産業や科学技術の発展に貢献し、その功績顕著な個人又は団体を顕彰する。

沿革：「山形県産業賞」は、浦本政三郎科学技術賞（昭和37～42年度）、山形県科学賞（昭和44～46年度）を拡大継承して昭和47年度に創設された。昨年度までの受賞者は、個人110名、団体71となっている。「山形県科学技術賞」は、平成2年度に産業賞の特別賞として創設され、昨年度までの受賞者は23名となっている。

問い合わせ先 産業創造振興課 地域産業振興担当 神尾

電話：023-630-3151

報道監 産業労働部次長 奥山

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所	最上町
氏 名	大場 利秋
年 齢	75 歳
現 職	株式会社大場組 会長 株式会社ミヨシバイド 代表取締役 社会福祉法人千宏会 理事長 農業生産法人もがみグリーンファーム株式会社 代表取締役 株式会社高砂 代表取締役

2 受賞理由

株式会社大場組を創業し、総合建設業を軸としながら多岐にわたる事業に進出し、地域産業の活性化と地域雇用の確保に貢献している。

産業廃棄物処理施設での環境保護・リサイクル推進の取組や、高齢化社会を見据えた介護施設の運営、地域の観光拠点となる施設の整備など多方面で地域社会に貢献する事業を展開している。

3 具体的功績

- (1) 土木建築業者として創業した株式会社大場組は、最上地方を代表する総合建設業者として数々の施工実績で表彰を受けている他、最上小国川流水型ダムの建設工事や県立新庄病院の建替工事を請け負うなど県の重要事業を担っている。
- (2) 土木建築業務で生じる産業廃棄物を処理するための施設を建設し、国際規格 ISO9001（品質マネジメントシステム）及びISO1400（環境マネジメント規格）の認証を受けた他、廃棄物焼却溶融炉処理装置を考案して実用新案登録を取得している。また、燃焼時に発生する熱をハウス園芸の熱源として供給していることや、環境保護及びリサイクルの取組を推進していることが高く評価され、循環型社会の実現に向けた活動で顕著な実績を挙げた者を表彰する「全国リデュース・リユース・リサイクル協議会会長賞」を平成15年に受賞している。
- (3) 県内外で3つの介護施設を運営しているほか、若者のがんの早期発見のために健康長寿県やまがた推進基金に多額の寄付を行うなど、高齢化が進む地域社会での課題解決のために尽力し、令和5年に紺綬褒章を受章している。
- (4) 平成15年に最上町瀬見地内に「川の駅ヤナ茶屋もがみ」を開業し、町を代表する観光施設として高い集客力を誇っている。また、施設を活用した地域資源の魅力発信の取組が平成20年に経済産業省の「農商工連携88選」に選ばれている。加えて、令和5年11月に「道の駅もがみ」を隣接地にオープンし、町の観光及び産業振興に大きく寄与している。

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所 山形市
団 体 名 株式会社ジョイン
代表者名 代表取締役 武田 良和

2 受賞理由

昭和 37 年に冠婚葬祭のための互助会を設立して以来、本県の冠婚葬祭業の先駆的存在として、村山地域を拠点に各地で結婚式場や葬儀場を開業し、地域密着型の事業を展開している。

社員のキャリアアップや健康福祉の増進にも力を入れており、各種コンクールの上位入賞者を多数輩出してきた他、ワークライフバランス推進の取組が評価され、経済産業省の「健康経営優良法人」に 6 年連続で認定されている。

3 具体的功績

- (1) 冠婚葬祭事業を50年以上にわたって展開しており、これまでに15万口以上の互助会加入実績を有している。また、村山地域の各地で様々な葬儀場を運営している他、県内最大級の結婚式場「パレスグランデール」をはじめとするブライダル事業及びレストラン運営にも携わり、本県を代表する冠婚葬祭業者としての地位を築いている。また、コロナ禍における宴会需要の低迷や近年の価値観の変化を受けた式典の簡素化といった業界の変革期においても、新たなスタイルのサービスを提案してニーズへの合致を図っており、先駆的な取組により業界をけん引し、地域産業再生にも貢献してきた。
- (2) 社員の技術とモチベーションの向上につながる独自の研修や表彰制度があり、全国コンクールのグランプリ受賞者をはじめとする優秀な技能者を多数輩出し、業界の模範的存在となっている。また、ワークライフバランスの推進に力を入れており、社員の子育てや健康管理を応援する取組により経済産業省の「健康経営優良法人」6年連続認定や、やまがたスマイル企業認定制度で最高ランクの「ダイヤモンドスマイル企業」認定といった評価を受けている。
- (3) 当社が加盟する「一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会」と山形市及び山辺町との連携協定の締結に中心的な役割を果たし、自治体と連携した災害時支援や孤独対策、在宅療養の普及などの地域包括ケアシステムを推進することで持続可能な地域社会の実現に貢献している。また、歴代の社長が山形商工会議所及び山形経済同友会の要職や一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会の理事を歴任しているほか、役員が山形県組織「やまがた婚活応援団+」副団長、山形県教育委員等の公職を多数務めるなど、業界はもとより、地域経済、ひいては本県産業の振興発展に大きく貢献している。

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所 天童市
氏 名 松村 英一
年 齢 74 歳
現 職 エムテックスマツムラ株式会社相談役

2 受賞理由

エムテックスマツムラ株式会社の代表者として、長年にわたって半導体デバイスや自動車精密部品等の製造等の事業をグローバルに展開し、高い技術力を活かした高度な製品開発・製造により本県工業界をけん引する役割を果たしてきた。

山形県工業会会長や山形県職業能力開発協会会長などの要職を歴任し、特に本県で開催された第 54 回技能五輪全国大会では、大会副会長として大会を成功に導くとともに、本県代表選手の育成に貢献した。

3 具体的功績

- (1) 半導体デバイスや自動車精密部品の製造等を主力事業とするエムテックスマツムラ株式会社の代表取締役を長年務め、ベトナムでの半導体事業の拡大や大手自動車メーカーとの取引、医療分野への進出といったグループ全体での事業発展に携わってきた。現在も相談役として自身の経験を活かしながら同社の経営をサポートする役割を担っている。
- (2) 平成30年から令和 6 年まで山形県工業会の会長を務め、本県の工業振興施策に関する意見・提言を発信し、産学官連携による本県製造業の発展、地域経済活性化に寄与するなど、工業界全体をけん引してきた。
- (3) 平成25年から令和 6 年まで山形県職業能力開発協会の会長を務めており、職業訓練や技能検定の実施等を通して本県労働者の技能向上を推進してきた。特に平成28年に本県で開催された第54回技能五輪全国大会では、大会副会長として大会を円滑に実施・運営するとともに、県内外から目標を上回る153,500名の応援・県外来場者を集客し、大会を成功に導いた。加えて、本県代表選手の確保や育成、指導體制の整備に先頭に立って取り組み、その結果、平成24年には出場者 8 名、入賞者 1 名だった本県代表選手の実績が、平成28年の本県開催時には出場者110名、入賞者31名（金賞 3、銀賞 6、銅賞 8、敢闘賞14）を記録した。以降も年平均30名以上の出場者数と、全国初の 3 年連続金賞受賞者を含む数多くの入賞者を輩出し続けており、本県のものづくり産業を支える技能者育成に大きく貢献している。

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所 山形市
氏 名 上野 義之
年 齢 63 歳
現 職 山形大学学術研究院教授（医学部内科学第二講座教授）

2 受賞理由

平成 23 年に山形大学医学部教授に着任して以来、本県が東北地方で 2 番目に感染率が高かった C 型肝炎に対する治療薬の開発に尽力するとともに、肝炎対策協議会の中心メンバーとしてウイルス性肝炎の治療の普及を推進し、本県の肝臓がんの罹患率及び死亡率を国内最少とすることに貢献した。その他、B 型肝炎治療薬の開発試験や、胆汁うっ滞性疾患の病態形成メカニズムを最新の解析手法を用いて明らかにするなどの学術的功績を残している。

令和 2 年度から令和 5 年度まで山形大学医学部長を務め、新型コロナウイルス感染症の流行時は、県や山形市と連携したワクチンの大規模接種計画を推進した結果、山形市が全国の主要都市（県庁所在地、政令指令都市、東京 23 区）でワクチン接種率第 1 位となる成果を上げた。

3 具体的功績

- (1) C 型慢性肝炎及び C 型代償性肝硬変に対する薬剤の有効性及び安全性を実証するための国内相臨床試験に北海道・東北地方で唯一参加し、副作用の少ない薬剤の開発に貢献した。また、B 型肝炎ウイルスに感染した日本人患者における肝細胞がんの発症率に関する研究成果を発表し、その中で本県においては国内では割合が少ないウイルスジェノタイプの感染が多く、高齢者では発がん率が低いことを明らかにするとともに、B 型肝炎治療薬開発に関する国際共同試験を実施し、長期に安全性が高い治療薬の有効性を明らかにした。その他にも、指定難病となっている原発性胆汁性胆管炎や原発性硬化性胆管炎といった胆汁うっ滞性疾患の病態形成メカニズムをデジタル PCR 法やレーザーマイクロダイセクション法といった最新の解析手法を用いて明らかにしたことなどの学術的功績がある。
- (2) 本県の C 型肝炎ウイルスの陽性率がかつて東北で 2 番目に高かったことから、県と連携してウイルス性肝炎の検査・治療体制を構築するなどの肝疾患対策を地道に実施していった結果、本県の肝がん罹患率及び死亡率が全国で最も低くなり県民の健康増進に貢献した。また、山形大学医学部長就任時には、新型コロナウイルス感染症の流行を抑制するため、県及び山形市とワクチン集団接種に関する連携協定を締結し、医師や看護師を各地に派遣するなどワクチンの大規模接種計画を推進した結果、令和 3 年 9 月 1 日時点で山形市が全国の主要都市でワクチン接種率（2 回目）第 1 位となった。

※年齢は令和 6 年 11 月 3 日現在